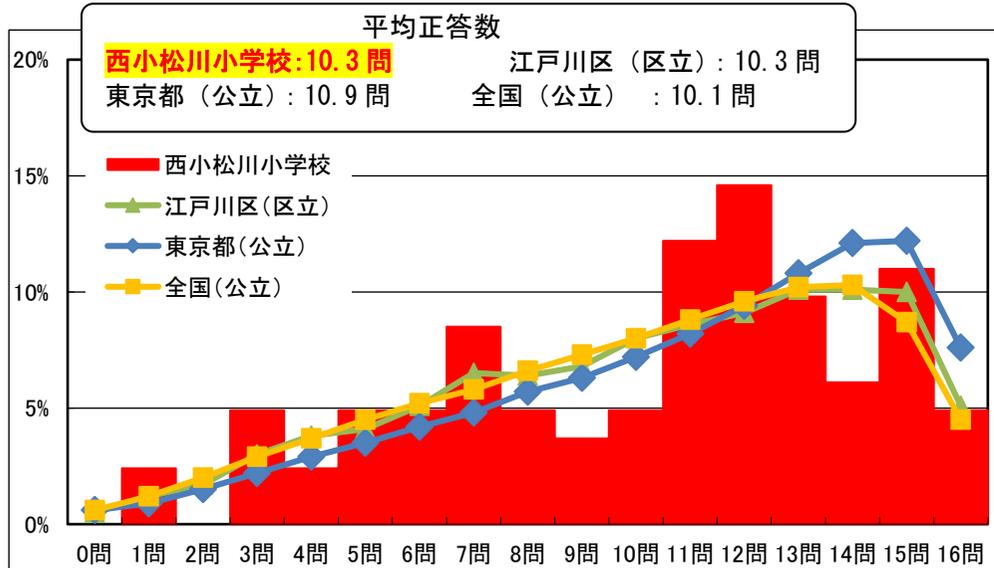


令和6年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【算数】 西小松川小学校

正答数分布



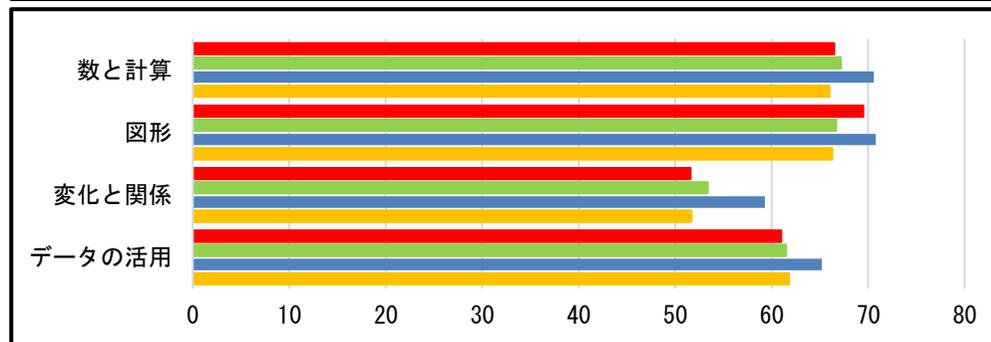
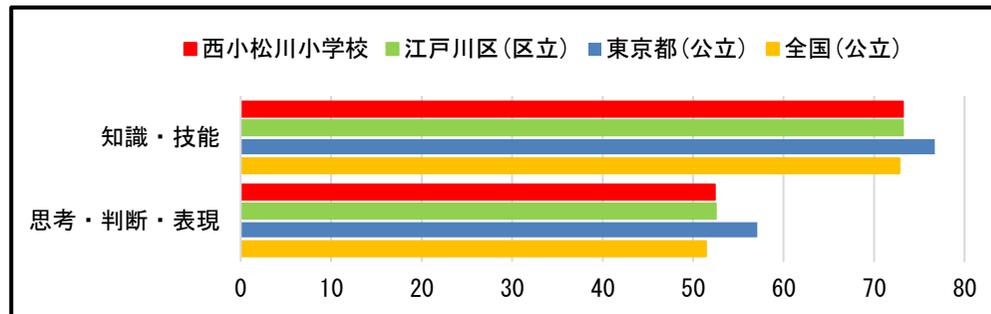
<四分位における割合(都全体の四分位による)>

上位 ← → 下位

算数	A層 14~16問	B層 12~13問	C層 8~11問	D層 0~7問
西小松川小学校	22.0	24.4	25.4	28.0
江戸川区 (区立)	25.2	19.2	29.8	25.8
東京都 (公立)	31.9	20.2	27.4	20.5
全国 (公立)	23.5	19.8	30.7	26.0

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都 (公立) のデータを基に定めている。

「領域別」の結果



【平均正答率の差】

西小松川小学校	64.0%
江戸川区 (区立)	64.0%
東京都 (公立)	68.0%
全国 (公立)	63.4%
都との差	-4ポイント

【分析結果と授業改善に向けて】

「図形」の領域で本校の平均正答率 69.5% (全国 66.3%) と全国平均値を上回った。一方、「数と計算」「変化と関係」「データの活用」の領域では、本校の平均正答率は、全国平均正答率と大きな差は見られないが、都の平均正答率と比べると、「数と計算」(本校 66.5%、都 70.6%)、「変化と関係」(本校 51.6%、都 59.3%)、「データの活用」(本校 61.0%、都 65.2%) と都の平均正答率を大きく下回った。

授業改善に向けて、算数科の授業では、問題把握の場面で、既習事項やキーワードを丁寧におさえ、見通しをもって解決できる工夫をしていく。また、全体で解決方法を分類・整理していく際には、児童が主体的に学習に取り組めるよう、ICT 等も積極的に活用しながら協働的な学習を推進していく。